

英語科学習指導案

日 時：

展開学級：

場 所：

授 業 者：

1 単元名 PROGRAM 6 “Live Life in True Harmony” SUNSHINE ENGLISH COURSE 2

2 単元の目標

- (1) 受動態などの意味や働きを理解している。 [知識] 【知識及び技能】
- (2) スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について、受動態を用いながら簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。 [技能] 【知識及び技能】
- (3) アフリカ出身の ALT に、スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について伝えるために、事実や自分の考えを整理し、写真や図を使いながら、簡単な語句や文を用いて話すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (4) アフリカ出身の ALT に、スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について伝えるために、事実や自分の考えを整理し、写真や図を使いながら、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元について

本単元で取り扱われている言語材料は受動態であり、本文では歌われる曲やよく知られている人物を紹介する表現が使われている。動詞の過去分詞が出てくる点や、行為者を **by** 以外の前置詞で表すことがある点が、生徒を混乱させやすい言語材料である。過去分詞を一種の新出語として扱い、まずはその指導を丁寧に、反復して行い、身近な内容で口頭練習をさせるなどして、抵抗なく理解できるように努めたい。

本文では、盲目の音楽家スティービー・ワンダーが題材となっている。スティービー・ワンダーは盲目でありながら作詞・作曲もこなし、楽器の演奏もこなす人物であるが、そんな彼が社会の問題にメッセージを送り続けている背景事情などを知ること、本当の調和とは何かを中学生に考えさせることのできる題材である。本文では、スティービー・ワンダーに影響を与えた人物としてキング牧師やネルソン・マンデラが挙げられており、彼らはいずれも黒人差別と大きく関連のある人物である。キング牧師の“I Have a Dream”の演説にもある、「人を見た目でなく内面で評価すべきだ」という思いは思春期の生徒たちにこそ受け取ってほしいメッセージである。

指導においては、学習指導要領外国語 2 節英語の以下の 2 つの目標に重点を置く。1 つ目は、(2) 読むこと ウ「社会的な話題に関して、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。」と、2 つ目は、(4) 話すこと [発表] ウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。」である。本単元の言語材料を効果的に使い、かつ、上記の目標、特に 2 つ目の目標を達成するため、単元末には **Retell** のパフォーマンステストを設定した。

<CAN-DO リスト形式による学習到達目標との関わり>

本校 CAN-DO リストの2 学年話すこと（発表）の「写真や図、グラフなどを利用しながら適切な発表資料を作成し、親しみのある話題や日常的な話題について、自分の気持ちや意見を交えて発表することができる。」と示した目標に基づいて指導する。本単元の内容は、Retell を行う上では社会性が高く、意見を述べることも難しい内容だが、写真などの visual aids を使いながら、本文の内容を自分の言葉で聞き手に伝えられることを目標に指導を行う。

4 生徒の実態

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①受動態などの意味や働きを理解している。 [知識]	アフリカ出身の ALT に、スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について伝えるために、事実や自分の考えを整理し、写真や図を使いながら、簡単な語句や文を用いて話している。	アフリカ出身の ALT に、スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について伝えるために、事実や自分の考えを整理し、写真や図を使いながら、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。
②受動態を活用して、スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。 [技能]		

6 指導と評価の計画（1 1 時間扱い）

時間	■ねらい ・学習活動	知	思	主	評価方法
1～3	■受動態を用いた英文を聞いて意味を理解したり、適切に英文を書いたりできるようにする。 ・絵や写真を用いて受動態を導入する。 ・フラッシュカード等で過去分詞に繰り返し触れ、慣れる。 ・基本文の音読や、演習問題で表現に慣れる。	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を把握し、指導に生かすことは毎時間行う。			
4 (本時)	■スティービー・ワンダーについて知り、Think2,3 に内容に興味を持たせる。 ・新出単語の導入 ・Think1 の動画を視聴したり、音声を聞いたりして、本文の内容を理解する。 ・ペアになって本文の音読をし、理解を深める。 ・Retell のパフォーマンステストの動画を見て、教科書本文音読の意欲と目標意識を持たせる。				
5	■スティービー・ワンダーとキング牧師とのつながりや黒人差別の歴史について知る。 ・新出単語の導入 ・Think2 の動画を視聴したり、音声を聞いたりして、本文の内容を理解する。 ・ペアになって本文の音読をし、理解を深める。				
6	■スティービー・ワンダーとネルソン・マンデラとのつながりについて知る。 ・新出単語の導入 ・Think3 の動画を視聴したり、音声を聞いたりして、本文の内容を理解する。				

	・ペアになって本文の音読をし、理解を深める。				
7・8	■ アフリカ出身の ALT に、スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について話すために、本文の内容をまとめ、話す練習をする。 ・Think1,2,3 の内容を確認する。 ・ワークシートに話す内容を書く。 ・ギガタブを使って、話すのに必要な写真があれば、スライドにまとめる。 ・上記の活動を踏まえて、Think ごとに Retell を行う。			○	活動の観察 ワークシート
9	Retell ■ アフリカ出身の ALT に、スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について話す。 ・ALT を相手に、Retell のパフォーマンステストをする。	○	○	○	
10	Interact ■ みんなが知っているマンガや建物について、紹介する英文を作る。 ・グループごとに英文を作り、別のグループの人に紹介する。	記録に残す評価は行わない。 ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を把握し、指導に生かすことは行う。			
11	Review ・単元のまとめプリントを解き、受動態の確認をする。				
後日	単元テスト（リスニング問題を含む）	○	○		

<パフォーマンステストの評価基準>

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	○スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について、既習事項を活用しながら伝えることができ、 <u>文法的な誤りが少ない。</u>	○アフリカ出身の ALT にスティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について伝えるために、 <u>Think 1～3 の要点をまとめながら</u> 自分の考えを整理し、写真や図を使いながら話している。	○アフリカ出身の ALT にスティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について伝えるために、事実や自分の考えを整理し、写真や図を使いながら話そうとしている。 <u>また、聞き手に質問を投げかけるなど、聞き手意識を持ちながら話そうとしている。</u>
B	○スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について、既習事項を活用しながら伝えることができている。	○アフリカ出身の ALT にスティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について伝えるために、事実や自分の考えを整理し、写真や図を使いながら話している。	○アフリカ出身の ALT にスティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について伝えるために、事実や自分の考えを整理し、写真や図を使いながら話そうとしている。
C	B に達していない。		

7 本時の指導

(1) 本時の目標

受動態を活用して、スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について、簡単な語句や文を用いて伝える技能を身に付けている。 【知識及び技能】

(2) 本時の展開

過程	学習内容 (○) と内容 (・)	指導上の留意点 (・) と評価 (◇)
動画視聴 — 5 分	○Retell のパフォーマンステストの動画視聴 ・パフォーマンスにおける良い点や、参考にしたい点を意識しながら動画を見る。	・教科書本文の音読活動、Retell の活動に向けて意欲を高め、目指すべき姿のイメージを持たせる。
Warm-up 5 分	○挨拶 ○新出単語の確認 ・ペアになり、単語リストを使い、 ①ペアに言われた英単語の意味を答える練習 または、 ②ペアに言われた日本語を英単語で答える練習をする。	・生徒が大きな声で、積極的に英語を話す雰囲気を作る。 ・英語で答える生徒が、自分のレベルに応じた学習ができるよう、ペアに①②のどちらで学習したいかを伝えさせる。 ・机間指導を行い、正しく英単語が発音されているかを確認し、必要に応じてフィードバックする。
導入 10 分	【本文の内容理解①】 ○Think 1 の動画を視聴し、聞こえた単語や映像から得られた情報などを、グループになって英語で共有し合う。 ○生徒からの情報をもとに、教師の説明を聞き、大まかに内容をつかむ。	・ジェスチャーを使ったり、日本語が少し混ざったりしてもよいことを伝え、グループでのコミュニケーションが活発になるようにする。
Today's Goal : Retell につなげられるように、本文の内容を理解し、覚えるほど音読しよう。		
展開① 15 分	【教師 対 生徒による本文の内容理解②】 ○1 語読み ・単語 1 つ 1 つの発音を確認する。 ○リピーティング① ・デジタル教科書の音声に続いて、1 文ごとに英文を音読する。 ○スラッシュ入れ／日本語訳の確認 ・英文にスラッシュを書き入れる。 ・日本語訳 (Pink Japanese Sheet) を見ながら、	・必要に応じてカタカナを振ってもよいことを伝え、次以降の活動に前向きに取り組める準備をさせる。 ・生徒が読みにくい部分やつまづく部分を把握する。 ・近くの人と取り組んでもよいことを伝える。 ・一度に区切る単語数を 7±2 とし、取り組みやすいようにする。

	スラッシュの位置を確認する。 ・日本語訳（Pink Japanese Sheet）を見ながら音声を聞き、内容を正確に理解する。 ○スラッシュ・リーディング① ・教師に続いてチャンクごとに音読する。 ○リピーティング② ・デジタル教科書の音声に続いて、1文ごとに英文を音読する。 ○オーバーラッピング ・デジタル教科書の音声に合わせて、1文ごとに英文を音読する。	・生徒たちのイントネーションやリンキングに注目して聞き、必要に応じてフィードバックを行い、部分的に練習する。 ・リピーティング①と比べて良くなったところを取り上げ、モチベーションを保たせる。 ・「音声の速さにできるだけついていく」を目標にさせる。必要に応じて再度フィードバックし、部分的に練習する。
展開② 18分	【生徒のペア活動による内容理解の深化】 ○シンクロ・リーディング ・ペアになり、揃えて英文を音読する。 ・読めない単語や、リンキングの部分をお互いに確認する。 ○スラッシュ・リーディング② ・ペアで順番を決め、先攻がチャンクごとに音読するのに続いて、後攻がそのチャンクを繰り返す。 ○同時通訳読み ・ペアで順番を決め、先攻がチャンクごとに日本語を言い、後攻がその日本語を英語に変えながら読む。その際、3つのレベルから選ぶ。 Level 1：英文をヒントにしてもよい Level 2：日本語訳をヒントにしてもよい Level 3：ヒントは相手が読む日本語のみ ○Q&Aの英問英答に答える。 ・これまでの活動による内容理解に基づいて、英問英答に答える。	・机間指導を行い、困っている生徒のフォローを行ったり、一緒に練習したりする。 ・後攻の生徒は、できるだけ教科書から目を離すように伝え、speakingにつなげる意識を持たせる。 ・3つのレベルがあっても、生徒たちはより簡単なものを選択しやすいので、積極的にチャレンジするよう促す。 ・Level 1であっても教科書見る頻度や時間等で、少しでも自分に負荷をかけるよう指導する。 ・時間に余裕があって繰り返し活動できる場合は、全員に1つ上のレベルを挑戦させる。 ・近くの人と相談しながらでもよいことを伝える。
振り返り	○振り返りシートに反省等を記入する。	

2分	・ 本時の授業でできるようになったこと、難しかったことを書く。 ○ 次回予告をする。 ・ Retell の練習についての話を聞く。	・ 今回の活動が Retell につながっていることを伝え、次回以降のモチベーションを持たせる。
----	--	---

(3) 本時の評価

受動態を活用して、スティービー・ワンダーや黒人差別の歴史について、簡単な語句や文を用いて伝える技能を身に付けているか。

【知識及び技能】